

I C T 研修（2025 日本国際博覧会視察）



先端デジタル技術を駆使し開催している「2025 日本国際博覧会」の視察を行いました。

博覧会では、デジタル機器を駆使した大阪博覧会の運営状況やパビリオンを見学しバーチャル未来都市などを体験・体感しました。

期間 令和 7 年 1 0 月 1 日（水）～令和 7 年 1 0 月 3 日（金）

参加者

	氏名	会員名	役職	備考
1	玉寄兼志	パンダグループ無線	代表理事	副理事長
2	前川 英之	株式会社ラジオ沖縄	代表取締役社長	理事
3	大田守春	セコム琉球株式会社	取締役部長	理事
4	國吉 博樹	沖縄セルラー電話株式会社	取締役執行役員常務	理事
5	生盛孫賢	沖縄総合無線センター	前専務理事	
6	末吉 敏勝	日本無線協会沖縄支部	支部長	
7	山城 康貞	沖縄総合無線センター	専務理事	
8	長嶺直子	沖縄総合無線センター		

● 空飛ぶクルマ

未来の移動手段と期待されている空飛ぶ車の展示を見学



● 国際赤十字

国際赤十字・赤新月運動は、「人間のいのちと健康、尊厳を守ること。」という使命を胸に、「人間を救うのは、人間だ」を掲げ、世界中で苦しんでいる人を救う活動し、いつかこの活動が終わることを願っていますが、いまだ終わりは見えません。ただ、人を救えるのは、人にしかできないことアピールしています。国際赤十字・赤新月運動館では、世界の人道危機、そこに立ち向かい、立ち上がる人々の姿を描くヒューマンストーリーを、半球型ドームシアターで赤十字の使命と活動を上映しています。



3 未来都市 KDDIと日立製作所の共同展示

「未来の都市」では、サイバーフィールドとフィジカルフィールドが相互に連携し融合した展示を通じて、来場者にさまざまな問いを投げかけ、未来の都市像を考えさせています。

また、未来の都市につながるデジタルイノベーションや新たな価値を実証し、通信基盤とDigital Twinを活用したソリューションで社会課題解決を提案しています。αUメタバースのシステム基盤を活用した「バーチャル未来の都市」『自分たちの生きていたい未来を考える』をコンセプトとする仮想空間を体感することができました。



■ シアターゾーン



シアターゾーンのイメージ

シアターゾーンは、来場者120人が一度に入場できるシアター型の施設。2035年に住んでいる設定の子供が登場し、身近なテーマに関するSOSを来場者に提示する。来場者はナビゲーターとともに解決策を考えて選ぶことになる。

ここで体现されているのは、サイバー空間と物理的な空間をITシステムでつなぎ、社会課題の解決に役立てる「サイバーフィジカルシステム」。同じ体験がメタバース上にも構築され、万博の会場外からでも体験できる。

■ アバターとして散策できる“バーチャル未来の都市”も

KDDIは「未来の都市」の協賛者と協力し、大阪・関西万博の会期中に“バーチャル未来の都市”を構築する。

バーチャルプラットフォーム上に構築され、来場者はアバターとして街を散策できる。未来のテクノロジーに触れたり街の住人と会話したりする体験が用意される予定。詳細は今後発表される。





農作業や土木工事を自動的に行う未来の農機



活躍の現場（左：水陸両用ブルドーザー、右：水中施工ロボット）



未来の風船「Wind Hunter」



「Wind Hunter」は、帆で風を受けて船を推進させ、その動力を使って海水からグリーン水素を製造・貯蔵・運搬し、陸上にエネルギーとして供給する未来船です。



四足歩行の乗り物

博覧会場やパビリオンへの予約、入場が全て電子化されたデジタル博覧会でした。未来都市空間では、移動手段は自動運転の空飛ぶ車、バスで自宅に居ながらの授業、診察や健康管理など子供から老人まで生活の行き届いたバーチャル未来都市を体感しました。また、プラットホームロボットによる全自動の農業作業から収穫、ロボットによる土木工事、介助、警備など先端デジタル技術を視察することができました。

